学校番号	2101

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	(学)現代の歴史	単位数	１単位	年次	全年次
使用教科書	使用しない						
副教材等	ダイアローグ歴史総合（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・おもに第一次世界大戦から 2000 年代までの世界・日本の歴史を動画も活用しながら学びます。
・授業で出てくる用語は、テレビなどで「聞いたことはあるな。」と思うものが多いと思われますが、その意味や歴史的意義まで理解している人は、少ないのではないでしょうか。授業内容を通じて、国際人として大切な歴史観を身につけ、多様な文化・背景を認め合える力を身につけましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
　我が国と世界の近・現代の歴史の展開をおもに第一次世界大戦から 2000 年代にわたって概観し、歴史の流れについて理解する。
【思考力、判断力、表現力等】
　諸資料に基づき地理的条件等とも関連付けながら，多面的にものごとを見ることを通じて歴史的思考力を培う。
【学びに向かう力、人間性等】
　現代社会に生きる私たちが，大戦がもたらした影響を考えながら、国際社会に主体的に生きる国際人としての自覚と資質を育成することをめざす。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	知識： 　大戦前後の現代の歴史の変化に関わる諸事象について、日本と世界とを広く相互的な視野から捉え、現代社会の政治思想等に関わる現代の歴史を理解する。 技能： 　諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的に考察する。 　また、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。	現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 　また、多面的な考察や深い理解を通して涵養される日本に生きる国際人としての自覚、自国と他国の文化を尊重することの大切さについて理解を深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前半	冷戦の終結と日本	・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。	a: 20 世紀後半から 21 世紀(平成時代)の日本について、冷戦の影響を理解し、政治・経済の変化についての知識を身につけている。 b: 20 世紀後半の日本について、冷戦の影響を考察し、テーマを決めて文章にまとめる。(沖縄の本土復帰など) c: 20 世紀後半の日本について関心を高め、自らのことと関連づけて意欲的に学習している。	単元テスト 授業プリント	考察課題 レポート	ふり返りシート 授業態度
	五五年体制の成立	・大戦後、わずか 20 年程度で高度経済成長期をなぜ日本が迎えられたのか、主に社会経済の側面から理解する。	a:高度経済成長のメカニズムを整理し、日本の産業構造の変化を理解している。 b: 高度経済成長下の日本では経済を優先するあまりに、公害などのストレスをもたらしたこと。その一方で当時の日本人に求められた“働き方”の原型が出てきたことを考察している。 c:高度経済成長のひずみについて、地方の過疎化、都市の過密化の課題を理解し、その課題への対応や解決について追究しようとしている。	単元テスト 授業プリント	考察課題 レポート	ふり返りシート 授業態度

前半	第一次世界大戦の発生と終結	・第一次世界大戦のきっかけと三国同盟・三国協商の関係を動画とともに理解し、そのころの日本が日英同盟を通じて、中国に進出しようとした動きを世界史的な視点で理解する。 ・大戦の終結に際しては、アメリカが参戦したことでロシア国内の不満から世界初の社会主義国家が誕生した過程を理解する。 ・パリ講和会議、ワシントン会議における各国の思惑と社会の状況を動画も活用しながら理解する。	a: 第一次世界大戦によって成立した総力戦体制と、その影響による社会の変化を理解している。 ロシア革命に対する内戦の構造と、日本がシベリア出兵をおこなったねらいを理解している。 b: バルカン半島の地理的・民族的・宗教的な複雑さをもとに、バルカン諸国の対立が第一次世界大戦の開戦に影響をあたえたことを多面的に考察している。 c: ロシア革命とソ連の成立の歴史的意義を追究しようとしている。	単元テスト 授業プリント	考察課題 レポート	ふり返りシート 授業態度
後半	世界恐慌の発生と各国の対応	・第一次世界大戦後、世界は第二次世界大戦に向かってどのような混乱と緊張におかれたのか、各国の対応から世界がむかう方向性を考える。	a: 世界恐慌の発生の原因・過程・結果をアメリカのニューディール政策と外交政策の変化とともに理解している。 b: 世界恐慌に対して、各国の対応策を比較している。 ・ソ連の計画経済にもとづく社会主義の政策が世界恐慌にどのように対応できたかを考察している。 c: 世界恐慌は、国際社会にどのような変化をもたらしたか、資本主義国・社会主義国の視点から多面的に、現代社会に生きる我々と関連づけながら追究しようとしている。	単元テスト 授業プリント	考察課題 レポート	ふり返りシート 授業態度

後半	ファシズムの台頭	・世界恐慌下の世界がどのような状況に追い込まれたのか？をソ連・ドイツ(ヒトラー)を中心に、動画を活用しながら多面的・多角的にヒトラーの政治を理解する。	a: ドイツ(ヒトラー)が台頭する具体的政策を理解し、イタリアや世界がどのような政策を展開していくか理解している。 b: ソ連のファシズム体制はどのような点で他国と類似していたかを考察し、表現している。 c: ドイツ(ヒトラー)の拡張政策に対して、ヨーロッパ諸国はどのように対応していったのかを追究しようとしている。 ドイツとソ連が独ソ不可侵条約を締結するにいたる過程を追究しようとしている。	単元テスト 授業プリント	考察課題 レポート	ふり返りシート 授業態度
	第二次世界大戦と太平洋戦争	・ドイツがポーランドに侵攻してはじまった、第二次世界大戦のきっかけと、動きについて、動画を活用しながら、理解を深める。 ・日本は、なぜアメリカと戦争したのか、戦争によって国民生活がどのように変化したのかを日中戦争から太平洋戦争開戦までを通じて考察する。 ・原爆投下の是非と日本の戦争責任について考察する。	a: 第二次世界大戦のおこった背景を理解し、ヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたのかまとめている。 日中戦争をきっかけに同盟関係のドイツに影響されて大東亜共栄圏を構想し、太平洋戦争に突き進む過程を理解する。 b: 日本とアメリカの対立の背景と、経済依存の関係をもとに、「なぜ日本が戦争を避けることができなかったのか」を考察している。 c: 第二次世界大戦の終結、ポツダム宣言の受諾にいたる過程を理解し、原爆投下の是非、日本の戦争責任について、現代の国際社会との関係性から多面的に理解し、主体的に考えようとしている。	単元テスト 授業プリント	考察課題 レポート	ふり返りシート 授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度